

「育幼」から 第二次世界大戦を考える

育幼 第三十九号より. 港区教育委員会 所蔵, 港区教育委員会 / デジタル港区教育史_見る・知る・伝える～港区教育アーカイブ～収録.
<https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11F0/WJJS07U/1310305200/1310305200100300/mp5158431808>

利用規定：<https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/MunicipalityHelp/1310305200/aup.html>



考えてみよう

- 「育幼」ってなに？
- なんの絵が描かれている？
- どんなことがわかる？

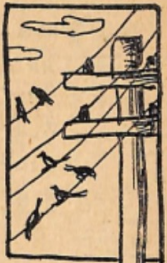


幼 育

號九十三第

目 次	
○ 青少年生徒二階へきまらぬ話	一〇
○ 支部事務	一〇
○ 二周年を距へて	一〇
○ 校長 青山 保一	一〇
○ 学友から家庭へ	一〇
○ 養の重要性	一〇
○ おは様方へ御願ひ	一〇
○ 児童編方成績	一〇
○ 学校便り	一〇
○ 年中休暇のために	一〇
○ 校内活動	一〇
○ 保護者會より	一〇
○ 寄附者芳名	一〇
○ 学級擔任及児童一覽表	一〇
○ 編輯後記	一〇
○ 卒業記念團西旅行	一〇
○ 第一學期圖書成績	一〇
○ 第一學期手工成績	一〇

校學小常尋川櫻市京東



児童綴方成績

きんぎよ

けさきんぎよばちをのぞいたらきんぎよがしろいおなかを出してしんでおました。ぼくはあゝかはいさうにと思ひました。どうしてんだのかわかりません。いもうととさうだんしてきんぎよのはかをつくらうとしました。入口の左の方に二十せんくらゐにぼつてその中へきんぎよを入れて土をかぶせて石をのせました。ぼくはおがみました。おかあさんきんぎよのはかができましたよといひますとおかあさんもここにこしならおがんだ。ぼくはすこしおかしくなつた。

あんまさん

おふるやを出した時はもうまつくらでした。あかるみをおしやべりしながらあるいてよこまちのちをまがらうとした時ふいにあんまさんがびりびりとふをふいたものですからおとなりの子はおどろいてぼくのほうによつてきました。ぼくもおとなりの子もうちへかへるまでおしやべりはできませんでした。あんまさんはどうしてこはいんだらうとぼくはかんがへました。

花 火

二ノ二

ぼくは、ゆふべ花火をしてあそびました。はじめに、せんに花火をしました。ぼくがやつてゐると、そこへとなりのともだちがやつて来て、「ばん」となるのをやらしてくれ、といひました。その子は、花火に火をつけました。そして木のあいだに、さしました。すると、「ばん」と大きい音をたて、赤い火が高く上りました。ともだちは、びつくりしてうちの中へにげました。そして花火がをはると、「あゝ、おつかなかつた。」といひました。

花 火

二ノ二

ぼくのともだちの四年の子が、ねづみ

はなびをやりました。すると、びよんと、とんでのびてしまひました。するとそのともだちが、「ちへつ、のびちやら。」といひました。そこにゐた六年の子が、のびてゐるかへるをもつと、「しゆつ。」と出ました。そこをとりかゝつたおんなの人が、「きやつ」とびつくりしました。それから少しあそんでゐると、うちのおばあさんがよびに來たので、かへりました。

ヘイタイゴッコ

二ノ三

ボクハコノアイダウチノキンジョノコト、ヘイタイゴッコヲシテイルト、ヒカウキガトシキタノデ、ミンナガ、ワツト、イヒマシタ。ボクヲチノナカマニ、ヒカウキヘ、ノル。ヘイタイガイタノデ、アノヒカウキヲ、オヒツケテイキマシタガ、見エナクナリマシタ。ソシテカヘツテキマシタノデ、ヘイタイゴッコヲ

シマシタ。ボクガ中タイヤウニナリマシタ。ボクヲチガテキノ一トウダイチナ所ヲセンリヤウシマシタ。ソシテボクヲチノフタイハ一パンノリヲシマシタ。ソコデ、ボクハダイタイヤウニ一パンノキンシケンシヤウラモラツテタイイモダゲテモラヒマシタ。ソコデボクガブタイチヤウニナリマシタ。ソレデボクガゴウレイヲカケマシタ。ソシテカンベイシキガヲワルトセンソウガハジマリマシタ。ムカフハ木ノ上ニノボツテボウエンキヤウデ木ノカゲカラコツチヲ見テキマシタ。ボクヲチハチキガ木ノ上ニノボツテキルノヲ見テツツボウデウチツツシマヒマシタ。ソノテキラ、ツツボウヤ刀デキツテシマヒマシタ。

おてつた

二ノ四

私は學校からかへつてごはんをたべてからおてつたをしました。それでろをかをふかうとしました。ちやんがいたづらに來ました。ちやんは、おも

しろいかほをして「ねえちやん」と私のことをよびました。さうしておてつたをだん／＼はじめました。おかあさんはこちらのろうかもふいてちやうだいとおつしやいました。私は「はい」と大きなこゑでどなりました。おかあさんは「まあいゝおへんじだこと」とおつしやいました。私は「一べんころんだこと」がありました。そこで、こんどはきをつけてやりました。そこへ、さんがきました。私は「それで三がいから下りて来てすぐ外へ出て見ました。そして、さんは「さん」といつてわらひました。私は「さん、ちよつとまつてゐてね」といひました。さんは「どうして」といひました。私は「もうすこしおてつたがをはりだから」といつて、さんにそこでまつてもらひました。そこへおかあさんが「もうやらなくてもいいわ」とおつしやいました。そしておかあさんは「は二年生になつてからおりかうになつてよくおてつたができるやうになつたね、だからごぼろびをあげませうとおつしやいました。」

考えてみよう

- おかしいところはある？
- どんなことが書かれている？
- 「ヘイタイゴッコ」ってなに？